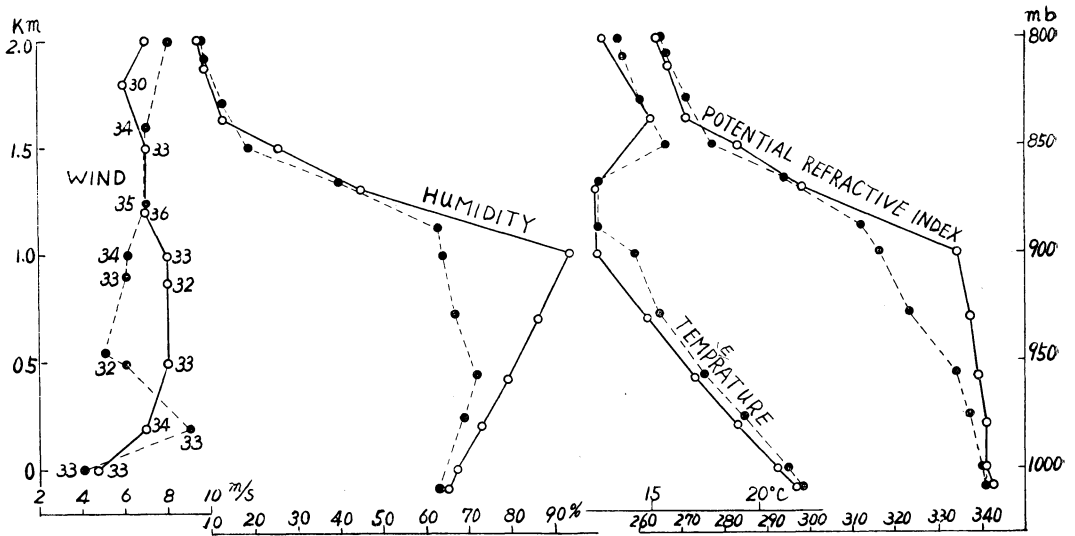


SEPT. 3, 1967

—○— 0830-0912

---●--- 1002-1047



第 3 図

参 考 文 献

- 1) Atlas, D., K.R. Hardy and T.G. Konrad, 1966: Radar detection on the tropopause and clear air turbulence, Proc. 12th Weather Radar Conf., Amer. Met. Soc., 279-284.
- 2) Hardy, K.R., K.M. Glover, 1966: 24 hour history of radar angel activity at three wave-
- lengths, Proc. 12th Weather Radar Conf., Amer. Met. Soc., 269-274.
- 3) Hicks, J.J., J.K. Angell, 1968: Radar observations of breaking gravitational waves in the visually clear atmosphere, J. Appl. Met., 7, 114-121.
- 4) 小花隆司, 1968: 列状(波状)のエンゼルエコー, 印刷予定.

[新刊紹介]

「実用科学英語」(日本科学技術英語研究会編, 発行)(中央区八重洲田代ビル内) No.1 230円, No.2 250円
 国際会議ばやりの昨今である。国粋主義者といえども英語を使わねばなるまい。実情はと言えば、外国に長期間滞在した特殊な才能を持つ少数の語学に堪能な人々を除いては、日本人の英語を話す能力は未だしの感が深い。図表を見せたり黒板に数式を書いている間はまだまだ、口答のみでの質疑応答、討論では意を尽せないという経験をお持ちの方も少なからぬことと思う。

さて、この実用科学英語ハンドブックシリーズ No. 1 は「数・数式・記号及び図形の読み方」と題し、基数・序数の読み方から始めて微積分、立体図形まで多くの例を挙げて親切な説明が施されている。良く考えてみると

日本語での初等・中学数学教育においてすら、数式の読み方はズサンに扱われているようである。「数学は最も美しい国際語である」などとシャレたことを言う人もいるが、まずは正確な言葉を使うことが第一であろう。口頭のみならず、たとえば気象集誌の論文で、数式に関連した説明文、議論などにも、正確を期する意味で、本書は参考になろう。同シリーズ No. 2 は「国際会議・討論及び対話に必要な英語の決り文句集」で題名どおりこれ又豊富な実例を列挙してある。習うより慣れるとは至言にちがいのなかるうが、決り文句はひとつとおぼえていて損はない。

異なる言語間の障壁は永遠に越え難い。武力による世界制覇でも夢みぬかぎり、必要な英語は少しずつでも覚えてゆくほかはない。
 (廣田 勇)